

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/3)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	カワモトナオキ 河本直樹
学歴	昭和62年 3月 京都工芸繊維大学繊維学部高分子学科 卒業 平成元年 3月 京都工芸繊維大学大学院繊維学研究科高分子学専攻修士課程修了 平成 4年 3月 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科機能科学専攻博士後期課程修了				
学位	平成元年 3月 工学修士 (京都工芸繊維大学) 平成 4年 3月 博士 (学術) (京都工芸繊維大学 博甲第1号)				
専門分野	色彩学、色彩画像処理、感性工学				
専門資格					
所属学会	日本色彩学会、繊維学会、日本繊維製品消費科学会、日本繊維機械学会、日本感性工学会、電子情報通信学会				
受賞					
担当 授業科目	学 部 色彩論、アパレル流行論、総合社会学演習 、総合社会学演習 、現代社会研究演習Ⅰ、現代社会研究演習 、現代社会研究演習 、現代社会研究演習 、現代社会実習 -2				
論文指導	論文指導 (卒論 : 8 名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	1	科目名 色彩論	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 207名
		授業の概要： 現代生活のあらゆる面に影響を及ぼす色彩について体系的に学習する。まず「色とは何か？」を正しく理解するために、色に関わる物理、生理、心理の基礎を学習する。そのうえで、数値や記号による色の表し方、混色と色再現の技術、色の見え方や感じ方等について紹介する。さらに、近年重要となっているデジタル画像における色の扱いについても言及する。			
		教育活動の振り返り 教育活動の成果： パワーポイントのアニメーション機能等を有効に活用し、色彩のさまざまな視覚的効果をわかりやすく示す工夫をした。その工夫が、受講生の興味関心をひき、学習意欲の向上につながったことが、「授業をよりよくするためのアンケート」の自由記述の内容からもうかがえた。 今後の課題： 色彩学の基本となる理論の中には、測色や表色など、数学や物理学にかかわる難しいところもあるが、そのような内容を、できるだけわかりやすく、(しかし本質を損なわないように) 教える方法を検討する。			
	2	科目名 アパレル流行論	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 146名
		授業の概要： アパレル製品のもつ諸特性の中でも特に基本となる繊維素材と色彩について詳しく解説するとともに、アパレルや色彩に関する心理効果や流行現象等についても言及する。			
		教育活動の振り返り 教育活動の成果： アパレル製品について、色彩学、被服材料学、被服心理学など、できるだけ幅広い領域から解説することで、受講生の関心やニーズに、ある程度応えることができたと考えている。 今後の課題： 上記のように、幅広くさまざまな学問領域や観点から非常に多くのトピックを扱っているため、どうしても受講生の理解が深まりにくい。今後は、これまでのように多彩な内容を扱うにしても、もう少し濃淡をつけて、重点的にじっくり取り組む項目をいくつか選ぶ。			

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2 / 3)

F D 活 動 実 績	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 次の学内研修等に参加した。 平成26年10月30日 第1回FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ～ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携～」 平成27年 3月 5日 第2回FD研修会「授業と評価をつなぐ為に ～ルーブリック評価入門～」 ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 色彩検定（色彩検定協会（AFT）主催） カラーコーディネーター検定（東京商工会議所主催）等の受験希望者に対する個別相談ならびに個別指導を随時行った。
H26 年度 研究課題	1. テキスタイルデザインの色彩分布と視覚的印象 2. 衣服における色彩嗜好と配色嗜好 3. ファッションメディアにおける色彩の効果
平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 研 究 活 動 の 概 要	1. テキスタイルデザインの色彩分布と視覚的印象 テキスタイルデザインの色彩分布から得られる特徴量について種々検討した。具体的なテキスタイルデザインの視覚的印象評価との関連を調べるための実験等は未着手であるが、ここで検討した色彩分布の特徴抽出の手法は、下記「3. ファッションメディアにおける色彩の効果」に応用することができた。 2. 衣服における色彩嗜好と配色嗜好 多色配色のよさについて、特に平均彩度の影響に着目し、検討した。今回は対象を衣服に限定せず、単純な4色配色を用いた評価実験を行い、その結果を、CIELAB表色系に基づくメトリッククロマの値を用いて分析した。評価者の性別との関連の分析や、クラスタ分析も行い、詳細に検討した。この研究成果は、日本色彩学会誌に投稿し、掲載された。 後述：(論文)2 3. ファッションメディアにおける色彩の効果 色彩画像処理の手法を用いて、女性ファッション雑誌の表紙における色彩分布の特徴を抽出し、それらの特徴量によって、数多く出版されている雑誌の分類等を試みた。またその分類結果を、各雑誌がターゲットとする読者のファッション系統との関連をふまえて、考察した。この研究成果は、日本繊維製品消費科学会誌に投稿し、掲載された。 後述：(論文)1
平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等	(著書) (論文) 1. 「女性ファッション雑誌の表紙における色彩分布の特徴」(資料) 単著、平成27年2月、日本繊維製品消費科学会 繊維製品消費科学第56巻第2号 (pp.163-171) 2. 「多色配色の評価に対する平均彩度の影響：4色配色による実験的検討」(資料) 単著、平成27年3月、日本色彩学会 日本色彩学会誌第39巻第2号 (pp.76-84) (学会報告、学会活動) (その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) (調査活動) (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) (学内活動) 総合社会学科長、大学運営会議委員、大学教学会議委員、自己点検・評価委員会委員、自己点検・評価 管理運営専門委員会委員、自己点検・評価 教育研究専門委員会委員、自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員、危機管理委員会委員、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員、広報委員会委員、人事委員会委員、入試委員会委員、海外学術研究助成委員会委員、メディア・社会心理コース主任
平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 社 会 に お け る 活 動	

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(著書)
	1. 「現代社会の「色」を見直す」, 共著、平成22年3月、文理閣、京都文教大学人間学部現代社会学科編、『現代社会学科への誘い』(pp.140-144)
	2. 「「よいレポート」を書くために」, 共著、平成22年3月、文理閣、京都文教大学人間学部現代社会学科編、『現代社会学科への誘い』(pp.146-150)
	(論文)
	1. 「青年女子の食生活、生活状況と健康状況の20年間における推移」, 共著、平成21年12月、共著者：池田順子、福田小百合、村上俊男、森井秀樹、河本直樹、京都文教短期大学研究紀要第48集 (pp.8-20)
	2. 「中学生における食教育の一つの試み」, 共著、平成22年12月、共著者：池田順子、河本直樹、福田小百合、森井秀樹、京都文教短期大学研究紀要第49集 (pp.12-22)
	3. 「性差と経年変化をふまえた大学生の衣服嗜好色に関する研究」, 単著、平成23年7月、日本繊維製品消費科学会 繊維製品消費科学第52巻第7号 (pp.451-462)
	4. 「青年女子の疲労自覚症状に関与する要因」, 共著、平成23年9月、共著者：池田順子、福田小百合、河本直樹、村上俊男、日本公衆衛生雑誌第58巻第9号 (pp.793-804)
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度における活動	(学会報告、学会活動)
	1. 「青年女子における疲労自覚症状に関与する要因」, 共同、平成22年10月、第69回日本公衆衛生学会、共同発表者：池田順子、福田小百合、河本直樹、村上俊男、東京国際フォーラム
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
	(学内活動)
	平成18年 4月 FD委員会委員「平22.3まで」
	平成20年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平23.3まで」 教務委員会委員「平23.3まで」 共通教育委員会委員「平23.3まで」 学科予算委員会委員「平24.3まで」
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度における活動	平成22年 4月 就業力育成支援委員会委員「平24.3まで」
	平成23年 4月 入試実行委員会委員「平25.3まで」 就職委員会委員「平24.3まで」
	平成24年 4月 メディア・社会心理コース主任「現在に至る」
	平成25年 4月 実習委員会委員「平成26.3まで」
	平成21年度 京都文教短期大学非常勤講師 (「色彩と生活デザイン」担当)「平成25年度まで」
	平成22年 5月 京都文教高等学校ALP「カラーコミュニケーション」, 於：同校
	平成24年11月 京都文教教養講座 現代社会学科テーマ：「身近な現象から「心と社会の関係」を学ぶ」第2回講師、「消費行動に見る色彩心理 ～私たちはなぜ色に左右されるのか?～」, 於：京都文教大学